

## 2024 年度 第 3 回理事会 議事録

日 時：2024 年 7 月 12 日（金）15:30～16:30

場 所：ハイブリッド会議（オンライン及び機械振興会館 5 階 5S-2 会議室）

出席者：19 名（理事 10 名、監事 0 名、来賓 2 名、事務局 1 名）

（会長）菊地義典 （副会長）辻 勇

（常務理事）植田昌克、井田斉昭、加納孝樹、田口哲也、松原潤治、藤島忠康

（理事）菊地正人、岩崎真和（Web）、高橋丈助、松波崇宣、萩原寛佳、小原敏治、  
津井克巳（Web）、片山正典、前川直人（Web）

（監事）無

（来賓）経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐 國府田勝行様、吉崎様（Web）

（事務局）宇都木崇

---

### 挨拶（菊地会長）

既に総会の後で就任の挨拶という形で皆さんに感謝の言葉を述べさせて頂きました。継続的な事業はしっかりとブラッシュアップしながら進め、今年度は台湾からのお客様が参られるとの連絡があり、更に海外調査委員会の植田委員長は韓国の視察も粛々と準備を進めております。是非、理事諸兄におきましては引続きお力をお貸しいただき、日本歯車工業会を盛り上げていくことにご協力いただければと思います。

申し遅れましたが、今日は経済産業省から園府田課長補佐、吉崎様が Web にてご出席頂いています。後ほど、産業政策のお話をさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。経済産業省でも産業機械課の安田課長が異動となりまして、新任の須賀課長が就任されております。

それでは、今日の理事会、宜しくお願い致します。

---

### 議 事

定款第 37 条に則り理事会決議を行った。同様に定款第 39 条に基づき、菊地会長を議事録署名人に選任した。

### 議 題

#### 1. 審議・承認事項

- 1) 2024 年度日本歯車工業会の事業方針及び組織体制
- 2) 各委員会の事業計画策定
- 3) 2024 年度歯車の国際競争力に資する標準化推進補助事業中間報告
- 4) 新規入会承認の件

#### 2. 協議事項：無

#### 3. 報告事項

- 1) 景況報告
  - 2) その他
-

## 議 題 / 決定・検討事項

### 1. 審議・承認事項

#### 1) 2024 年度日本歯車工業会の事業方針及び組織体制 資料 No. 1

2024 年度日本歯車工業会の事業方針及び組織体制について菊地会長より説明を行った。

(下記参照)

5 月 24 日の総会でもご説明をさせていただきましたが、植田前会長の取り組んできたことを引き継ぎ、それをブラッシュアップして行く。更に、専務理事体制の確立、そして台湾のお客様をお迎えするミッションと韓国視察という形で海外との交流を強化しながら本年度を進めて参りたいと考えております。また、組織体制でございますが、お配りしている資料 No.1 の通りですので、よろしく願いいたします。

※2024 年度日本歯車工業会の事業方針及び組織体制は、全会一致により承認された。

#### 2) 各委員会の事業計画策定 資料 No. 2-1-2、No. 2-2

各委員会の事業計画策定について各委員会の委員長より説明を行った。

※各委員会の事業計画策定について全会一致により承認された。

#### 3) 2024 年度歯車の国際競争力に資する標準化推進補助事業中間報告

JKA から 3 年間の補助を受けており、今年はその 2 年目。去年同様、ISO 国際会議に委員を派遣し、交通費・準備段階の委員会費・謝金等の 4 分の 3 を補助頂く。逆を言うと 4 分の 1 は工業会の持ち出しとなる。第一期（去年）の支出が全体 600 万円のところ 180 万の支出という事で収まっている。川重の村井さん等新しいメンバーの育成もあり、今年度は 16 名の派遣を考えている。

※全会一致により承認された。

#### 4) 新規入会承認の件：有限会社 南歯車製作所 資料 No. 3

(株)植田鉄工所・植田社長よりご紹介。

※全会一致により正会員入会が承認された。

### 2. 協議事項：無し

### 3. 報告事項

#### 1) 景況報告

##### A 社

・2 月が決算月で今季スタートして 4 か月ほど。売上 1 %ダウン、経常利益 50%ダウンで非常に苦戦。物価上昇における製品の価格転嫁は代替認めて頂いている状況でもこれだけ落ちている。売り上げの中でも半分以上を占める減速機関連が戻っておらず、バイブレーターや諸関係も回復していない。ロボット関係の小型減速機も 1 月を底に回復傾向にあるがまだまだ本来の状況に戻っていない。売り上げの 25%を占める建機系は例年とほぼ横這

い。Air Line や北海道新幹線の仕事が増えると聞いているが未だ受注の数字には入っていない。工作機械関連や自動車関連は売上げの10%から15%ほどだが、低調か横這い。業績において苦戦しているばかりではなく人の確保難題。ここ2年程新卒&中途は採用0。

#### B社

・依然として10%から20%減。全体的に落ちている。その割には急ぎの仕事が多く、残業が増えている。人手不足も問題であるが、実質去年入った新入社員がインスタに（会社関連の情報を）挙げて貢献している。

#### C社

・6月決算、経営方針の説明会と第80期の業績報告会。  
・売上が前年比：97%で標準歯車の売上げ標準歯車の売上げが良い。  
・最近多いのは標準歯車の追加工と比較追加工。  
・売り先は自動車向け。ほとんどが一般産業向け  
・前期は半導体をはじめとする部品不足や設備投資、産業機械自動機器の出荷が滞り、前年割れとなった。物の値上がりに対して工場の方が追い付かず減収減益という事でした。国内向けが85%で直接輸出比率、うちの子会社の方から直接輸出しているのが15%。一時、中国の不動産バブルの崩壊により中国代理店の売上げ激減。今年に入りようやく底をついた状態。但し、中国をはじめとするアジア各国のデフレの状態が景気が低迷。値引き交渉もあり、価格改定を申し入れたところ却下され、逆に値下げ要求を受け大量失注となった。これにより貿易部の前期売上は86%と大幅に落ちた。

#### D社

・3月決算、売上高がコロナ前の2019年度と全く同じになった。2019年、20年、21年がボトムで同じように戻ってきた。今年の見通しが数パーセント高くなっている。それは値上げした分。値上げしたから上がったパーセント。

・半分海洋関連、半分陸上関連の売上げ。海について、例えば運河を通れなくなったケーブタウン回らなきゃならないとかいうタイプは低速の大きな船で、低速エンジンだからエンジンとプロペラが直結されていて歯車いらない。出るのは高速エンジンだから、プロペラの回転数に合わせるという形なのであまり動かない。80%が国内で、国内の造船所は（キャパが）決まっているので、現在、どんどん受注とっているが2年・3年先、もう5年先とか言い始めている。要するに先物が伸びているだけで、その年に出る需要は変わらない。

後の半分の陸の部分。全体の20%ぐらいがJRとか第三セクターの電化されていないところを走るディーゼルや新幹線や、夜に線路とか河川を見るための作業車、除雪車とかそういう乗り物が2割。それも変わらないどころかどんどん落ちている。JRの廃線は増えてますし、韓国・中国・台湾は代替品、今インドネシアから注文をもらい、マレーシアとかインドぐらい。その方面から受注していかないと国内ではもう伸びない。今、一番伸びているのはデータセンターが増えるので非常用発電機が増えている。値上げというと注文が取れなくなるのは同じ。

-----  
ご報告（経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐 國府田勝行様）

資料：経産省資料\_中堅等支援策

課長補佐 國府田様より「中堅企業支援策」についてご報告頂いた。

-----  
資 料

【資料 No. 1】2024 年度組織図

【資料 No. 2】活動報告並びに今後の予定

【資料 No. 3】2024 年度年間スケジュール(案)

経産省資料\_最近の政策動向

-----  
以上

2024 年 7 月 12 日

一般社団法人 日本歯車工業会

会長 菊地 義典

